

ケータイ活用教育研究会 ICT 活用授業レポート

2016 年度 4 月～9 月期

大学名	明治大学
学部、学科、コース等	法学部法律学科
教員名	阪井 和男
科目名、講義名	専門演習 AI・BI「東北再生支援」(春学期)
実施日時(曜日、時限等)	水曜、5 時限(16:20-17:50)
学年、対象クラス	3、4 年
場所	駿河台キャンパス リバティタワー
受講人数	約 40 名
公開シラバス URL	https://dl.dropboxusercontent.com/u/12166972/syllabus2016-semi.pdf
講義のねらい、目的	<p>テーマ「東北再生支援」</p> <p>当ゼミでは、2011 年に発生した東日本大震災に対応すべく設置された明治大学東北再生支援プラットフォームの活動にのっとり、明治大学が NTTPC コミュニケーションズ・他と共同で立ち上げた「つむぎプロジェクト」による被災地支援の大船渡モデルを構築・実証し、他地域へと展開することが目的です。このなかに、地域の小中学生への遠隔による教育支援を含みます。到達目標は、高い志にもとづく自分自身の崇高な使命を見つけ出すこと、人間の可能性を拓くための知的な鍛錬をすること、すべての人々の個性を認め尊重すること、社会的ジレンマを想像してその状況を解消するための自分の行動を考え抜くこと、これらを通して共生する社会を実現するために情報社会の中で生きることを考えることができること、などです。</p>
ICT 活用により期待できる効果、ICT 活用のねらい	<p>毎回提出の授業サマリ等、授業以外の予習復習に活用することで単位の実質化を図ること、授業目標の Can-Do リストによるアンケートで履修前後の到達度を比較すること、究極の質問による授業評価アンケートを取ること、その他アンケート等によって個人の学習履歴を残すこと。</p> <p>授業への動機づけと倫理の問題を同時に扱うために、初回と最終回に次の内容：授業の到達目標を自分の高い志にもとづいた崇高な使命として統合すること、獲得した知識・能力を使うとき出会う可能性のある社会的ジレンマを想像すること、崇高な使命にもとづいて社会的ジレンマを解消する行動を考えぬくこと、これらを通じて自分の中に倫理として落としこむこと——を議論し公開アンケートに記録しておく。</p>

利用機能	出席、アンケート、掲示板、協働板、教材倉庫、相談室、レポート
その他 ICT 利用機能	特になし。
講義の展開・デザイン (全体の流れと ICT 運用の流れ、消費時間数、道具)	(1) 本講座は、面接授業による各種情報提供と講義、被災地に出向いて復興支援ボランティア実習(6回程度)、インターネット環境を利用した遠隔からの各種支援業務(メディア授業)等から構成され、最後に活動報告書等を提出し、報告会で発表する。
学習成果、考察、所感	(1) 学習成果は毎回授業後に提出する授業サマリと Can-Do リスト、レポートである。 (2) 毎回授業後に 3 問程度に構造化した授業サマリをまとめさせることで、授業内容を振り返って気づきを記録することと、そのことの自分にとっての意味や自分の未来との関係を考えさせることで理解と印象を深める習慣付けができる。 (3) グループ討議にワールドカフェを取り入れたことで、短時間に多様な意見が簡単に集約できるようになり、議論の効率が格段に向上した。
ICT 活用の更なる発展への提言	クラスを閉鎖空間から解放するために、学生の個人情報を抜いた授業記録が自動的に生成されれば、これを社会に公開することで社会人等がいつでも授業見学に来られる契機となったり、その後のフォローをしていただいたりすることで、クラスがいつも社会とつながっている状態を ICT 活用によって作り出すことができるのではないだろうか。